横浜市立みなと赤十字病院

歯科口腔外科

病院の位置

MM21
地区
新港埠頭
大桟橋
氷川丸
山下埠頭
至ベイブリッジ
本牧
A突堤
首都高速湾岸線
至横浜
山下公園
新山下ランプ
みなとみらい線
県庁
マリンタワー
みなと赤十字病院入口
至本牧
磯子
馬車道
日本大通り
元町・中華街
横浜市立みなと赤十字病院
桜木町
JR根岸線
横浜公園
市役所
首都高速横羽線
関内
石川町
横浜市立
みなと赤十字病院
新山下ランプ
至山下公園
トンネル入口
病院入口
バス停
中スポーツ
センター
至本牧

横浜市立みなと赤十字病院

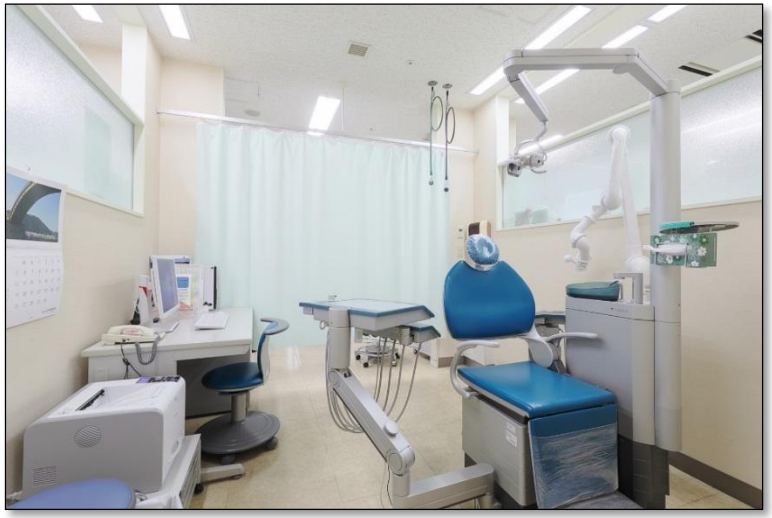
横浜市立みなと赤十字病院

2005年4月開院　病床数 634床（一般584床、精神50床）

救急救命センター　年間15,000台の救急受け入れ

横浜市立みなと赤十字病院

歯科口腔外科外来

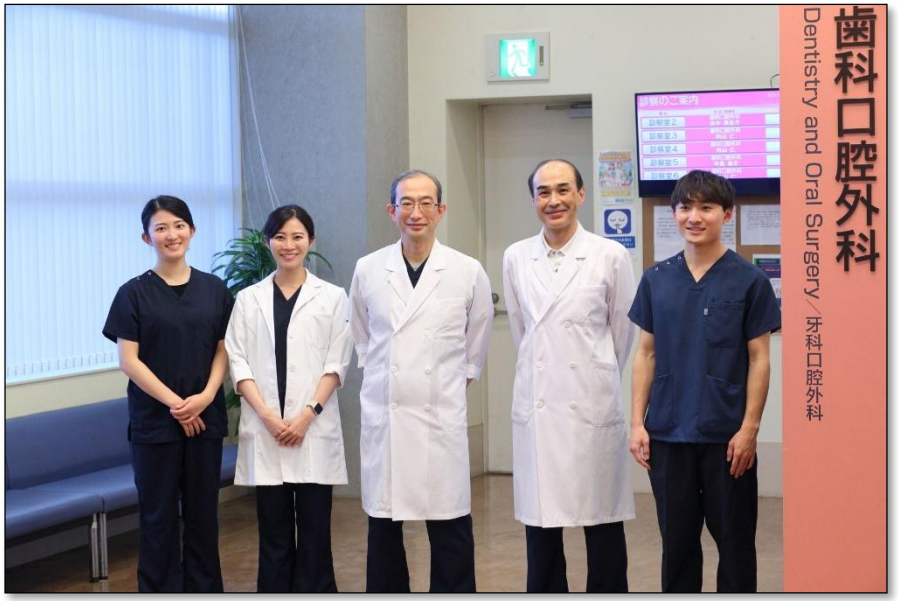


スタッフ

常勤医 3名

- 部長　中島　雄介
  （口腔外科専門医、がん治療認定医）
- 向山　仁（補綴専門医、指導医）
- 田中　美佐子

- 非常勤医 1名
  （摂食嚥下機能療法）
- 歯科衛生士 5名
- 助手 1名、受付 1名



日本の現状

後期高齢者の人数

- 2005年：1100万人
- 2030年：2200万人

年間死亡者数

- 2014年：100万人（病院死：80%）
- 2044年：170万人

日本の病院政策

- 病床は増やさない
- 病院難民（入院できず孤独死）

日本の医療の現状

- 近年若死は減少し、多くの人々が高齢期を迎える
- 死に至る過程で、虚弱な期間を過ごす
- 病院中心の医療体制では、一定以上の医療が必要 になった高齢者は、入院加療が必要となる
  - 廃用症候群、認知症、自立度の低下
- 国が目指す方向は、虚弱期であってもできる限り高齢者の自立を維持し、生活の質を保つ
- 病院完結型の医療から在宅の場に医療がおよぶ機能分化地域連携型システムへの移行

日本の歯科医療の現状

在宅の場に医療がおよぶ状況となる

- 歯科医療も例外ではない

歯科においては

- 虚弱な患者さんであり、有病者である
- 診療所に来れる人が限られる
- バリアフリーでないと通院が難しい
- 訪問診療の必要性が増している

私たちが考える研修

高齢化社会

- 歯科疾患だけの患者さんは少ない
  （いろいろな医科的既往がある）
- 患者さんの歯科治療上、医学的知識は必須
- 病院歯科では自分が担当する症例を通じて
  医学的知識を日常臨床の中で習得する
- 自分で勉強する努力が必要

みなと赤十字病院での研修の実際

- 実践的研修

  ー見学のみを希望する研修生向きではない
- 電子カルテに慣れるまでは、院内の口腔管理症例から開始
- 歯科診療を通じて医学的知識の習得
- 医療面接ができ、電子カルテが使える様になったら、実践的に外来で患者を担当
- 必要な症例は主治医として入院治療を担当

研修歯科医が治療する症例（1）

医科症例の歯科治療

- 入院患者の口腔管理
  - 化学療法患者さんの口腔ケア
  - 医科疾患で入院している患者さんの口腔ケア
- 歯性感染症、動揺歯の処置
- 顎関節脱臼の整復処置
- 粘膜疾患の診察
- 齲蝕治療、義歯治療

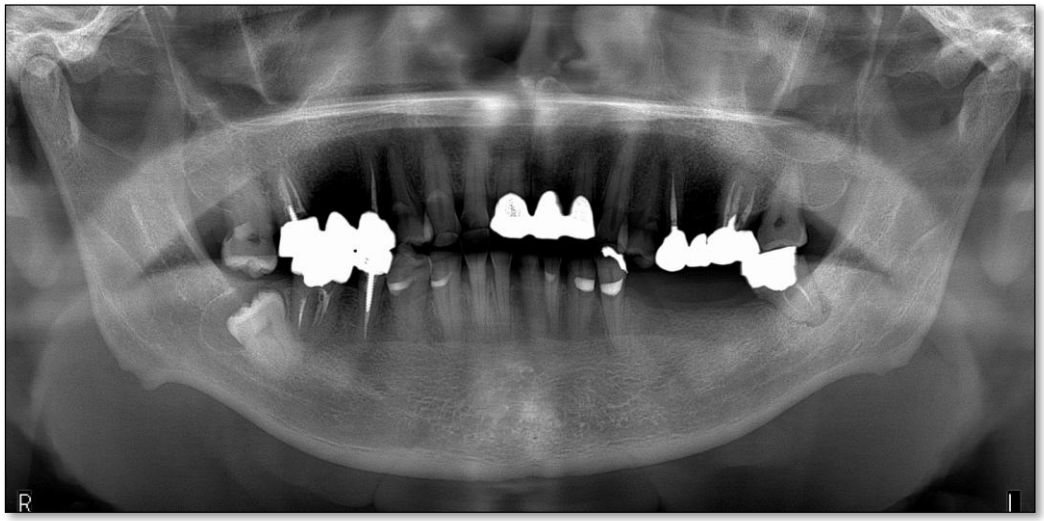
研修歯科医が治療する症例（2）

歯科口腔外科の治療

- 外来受診患者の診察、処置
- 当科入院患者の管理
  - 全身麻酔下の手術症例の術者
  - 静脈内鎮静法下の手術症例の術者
    （ルート確保、薬剤投与）
  - 急性歯性感染症の消炎処置

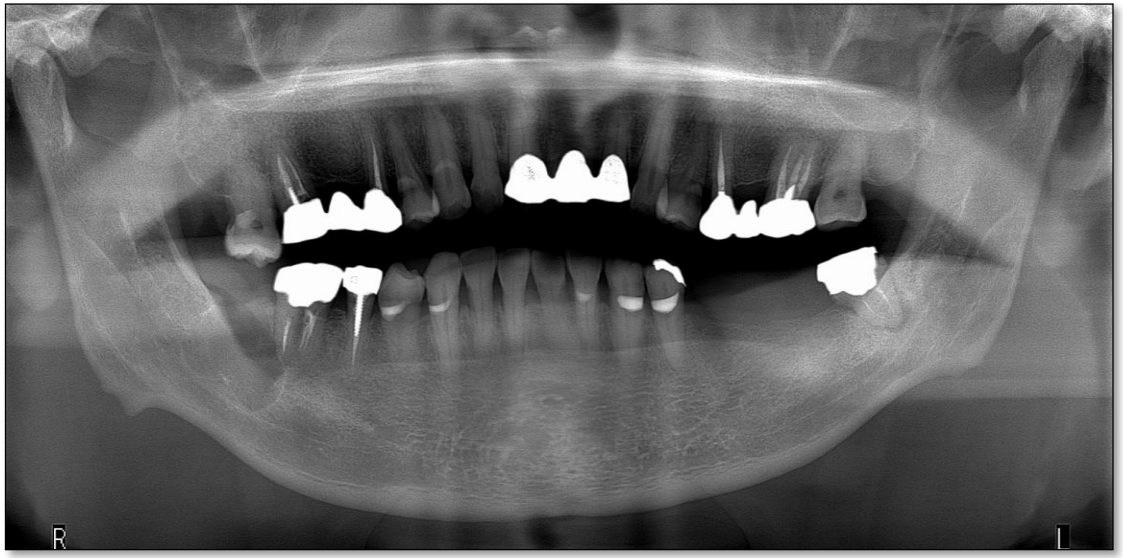
研修医の担当症例(1)

診断:右下7埋伏歯、含歯性嚢胞



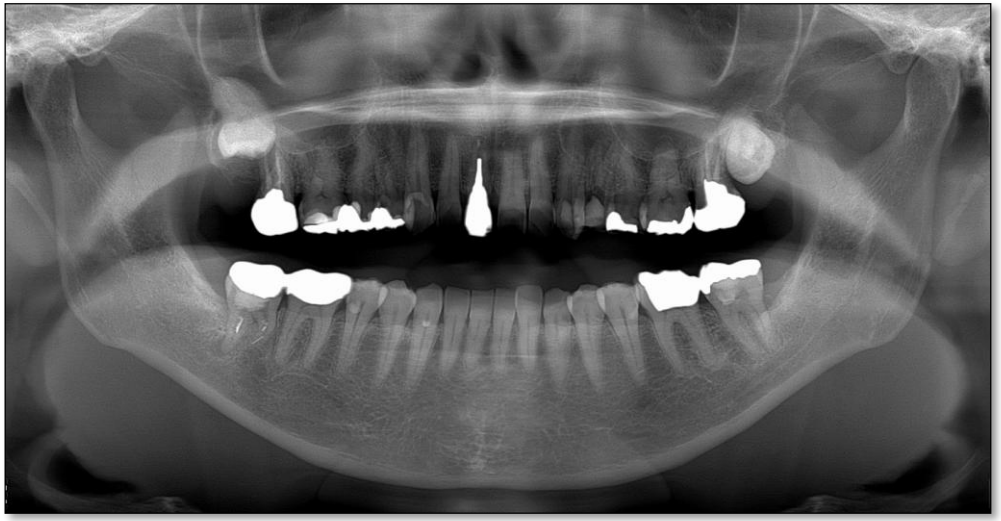
研修医の担当症例（1）

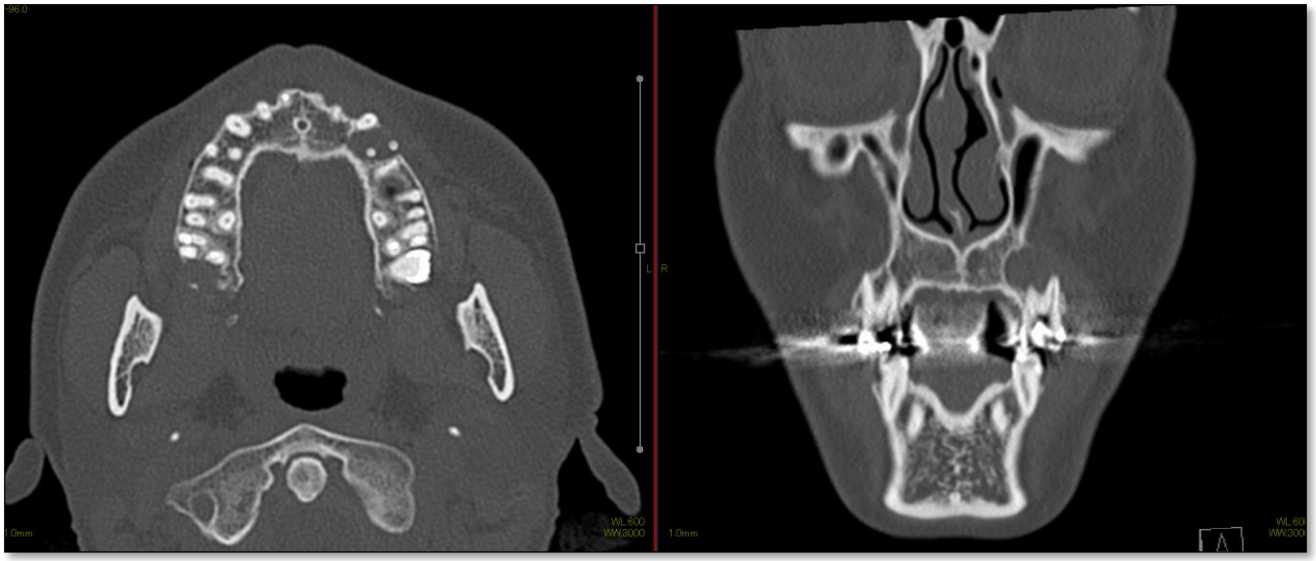
治療：全麻下に右下7埋伏歯抜歯術、嚢胞摘出術



研修医の担当症例(2)

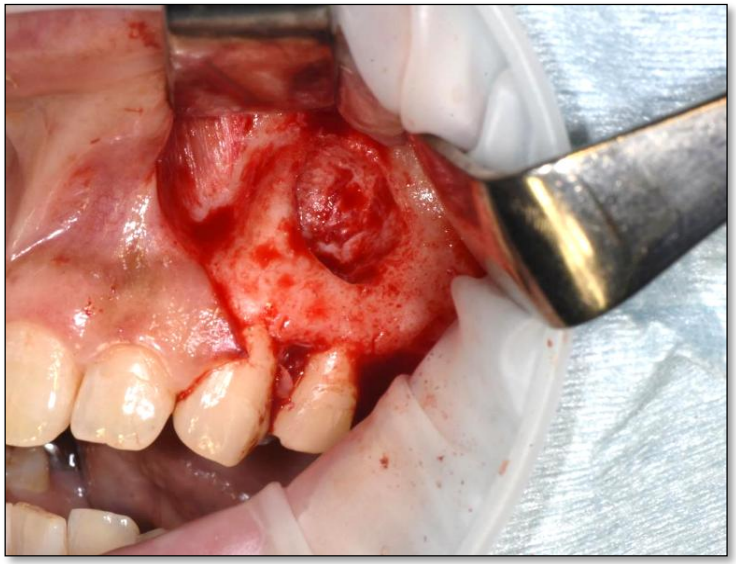
診断:左上4歯根嚢胞





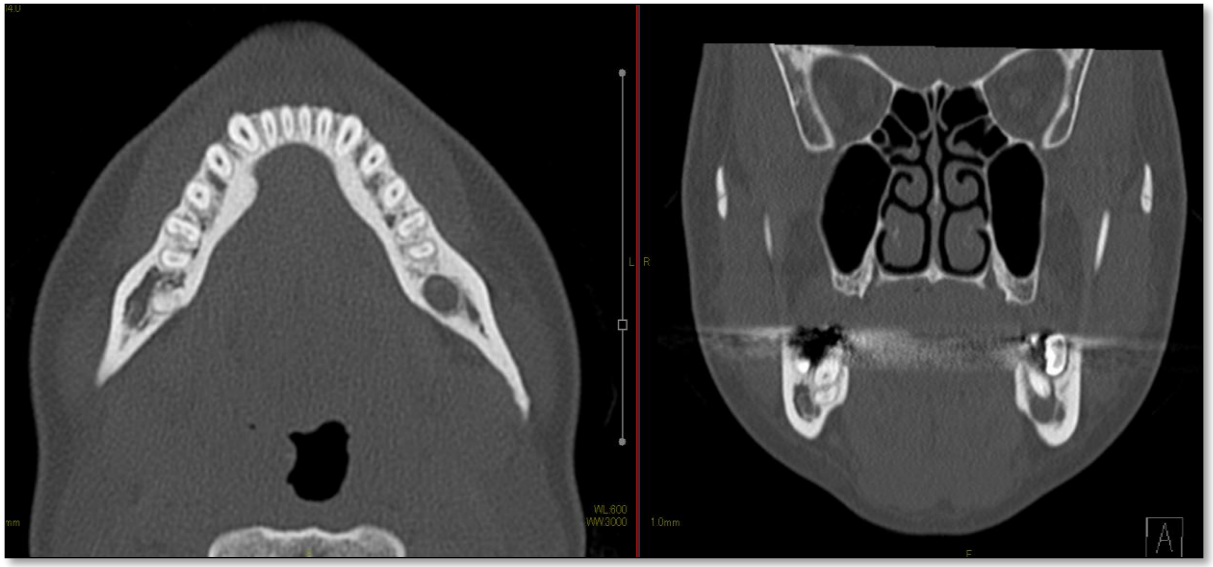
研修医の担当症例（2）

治療：静脈内鎮静法下に歯根嚢胞摘出術、歯根端切除術



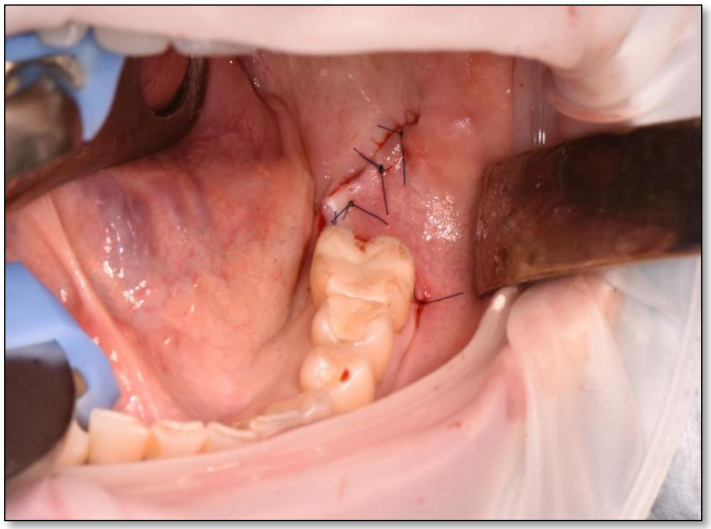
研修医の担当症例(3)

診断:左下7歯根嚢胞



研修医の担当症例(3)

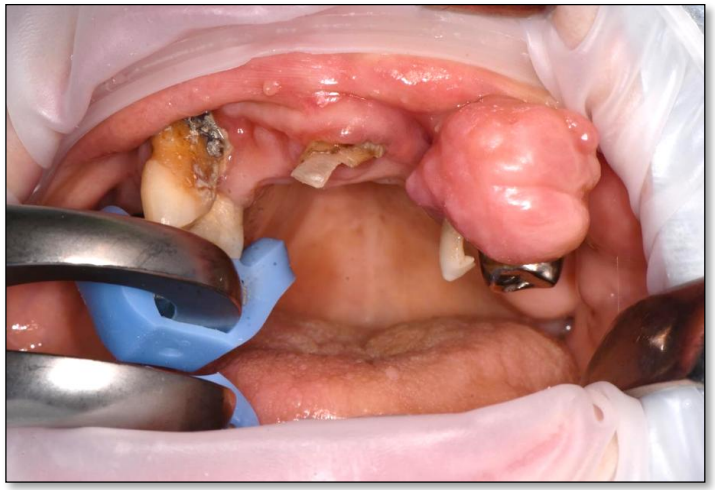
治療:静脈内鎮静法下に左下7抜歯、歯根嚢胞摘出術

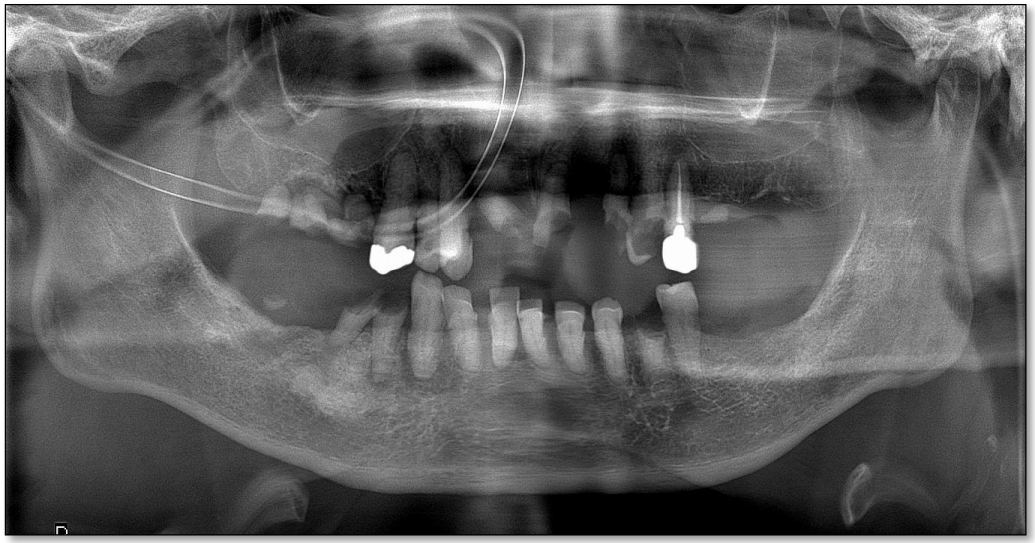


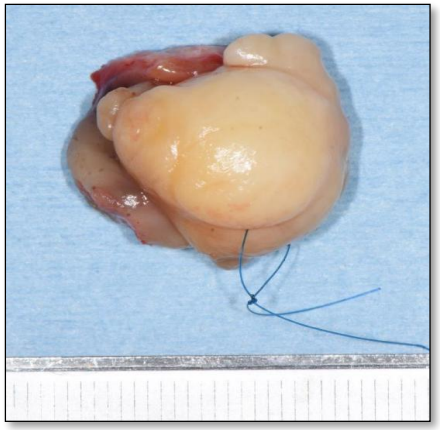
研修医の担当症例(4)

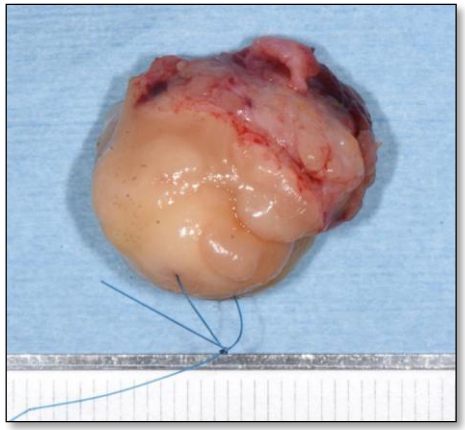
診断:左上顎歯肉エプーリス

治療:静脈内鎮静法下に歯肉エプーリス切除術









みなと赤十字病院では

一生懸命、自分の限界まで、研修をしてみたい

座学とは全くことなる実践の世界を触れたい

高齢化社会を勉強したい

やる気になれば、保存、補綴治療も可能

身近に指導医、見て学（まね）べ、スキルアップ